

ハーブ緑化による癒し空間の創出 - 病院や介護施設へのハーブ植栽の活用 -

田中 章 研究室
1361098 福島 綾佳

1. 研究の背景と目的

都市化が進み緑地が急激に減少し、都市部の人口は増加した。特に 65 歳以上の高齢者の人口が急速に増加している。現在のストレス社会において緑地は、「ヒートアイランドの緩和効果」、「美観向上」等の都市環境の改善よりも、「癒し効果」、「リフレッシュ効果」、「休憩場所」という心身の健康やストレスの緩和という効果が期待されている（岩崎，2017）。高齢化が進む中、増加する病院や介護施設の緑化は行われていても多くはエントランス部分の植栽や待合室などの観葉植物にとどまっている。しかし、施設は患者や高齢者にとって治療や介護だけでなく生活の場でもある。緑化による病気やストレスの緩和、即ち癒し効果が必要である。ハーブ植栽には香り等の癒し効果があり、病院や介護施設の敷地内にハーブの特性を活かした「癒し空間」を創出することを研究の目的とする。そのハーブガーデンのデザインを考案し、提案する。そして、癒し空間による緑化の促進に繋げたい。

2. 研究内容

研究を進めるにあたり、以下の点を行った。
①横浜キャンパス内のハーブ植栽の維持管理と観察、②文献調査によるハーブの特性の研究、③各地のハーブ園と病院や介護施設内のハーブガーデンの実態調査、④ハーブガーデンを活用している病院施設の事例研究。その上で、病院向けのハーブガーデンのデザイン、留意点、期待効果を考案、提案する。事例研究先から評価を受ける。

3. 研究結果

3. 1 文献調査

「癒し空間の創出」の効果を出すために、香りや花の効果、踏圧性、匍匐性、環境適性などを調査し、ハーブガーデンに適した品種のペニーロイルミント (*Mentha pulegium*)、サントリナ (*Santolina chamaecyparissus*)、ラベンダー (*Lavandula angustifolia*) 等 50 種余りを選定した。

3. 2 各地ハーブ園の現状

関東各地の 7 つのハーブ園を訪問し、実態を調査した。文献で選定したように香りが良く、花が美しく、耐候性が強く、また匍匐性のあるハーブを植栽 (図 1) していることが多かった。見学者に「触って香りを楽しむ」ように勧めることで癒し効果を高めている。車いす利用者への対応も含め、高床花壇やベンチの配置 (図 2, 3) にてより多くの人が楽しむための工夫がされていた。



図 1 匍匐性ハーブ



図 2 高床花壇

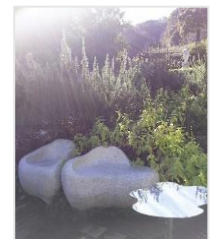


図 3 観賞用椅子

3. 3 病院や介護関連施設の現状

施設内にハーブガーデンがある 4 か所を訪問し、インタビューを行った結果、①庭園を造った目的は、患者さんへの安らぎで病気の緩和につなげ

る、②病院施設の庭園を一般に開放することで、都市部の憩いの場として活用している（図4）、③ボランティアの参画により、患者の活動範囲やコミュニケーションの輪が広がる、④施設によって屋上にハーブ庭園がある。（図5）。⑤日赤医療センターで事例研究を行い、緩和ケア病棟のテラスにあるヒーリングガーデン（図6）の植物による緩和療法の重要性を把握できた。

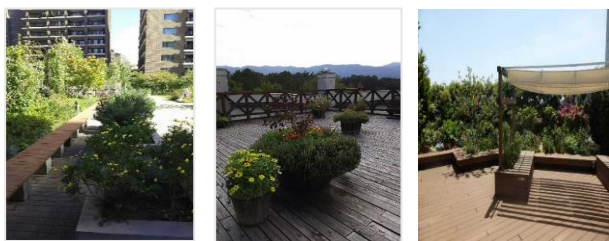


図4 一般への開放 図5 屋上ハーブ 図6 ヒーリングガーデン

3. 5 ハーブガーデンのデザイン

「ハーブ緑化による癒し空間創出」の留意点と下記の「期待効果」を検討し、ハーブガーデンのデザインを考案した。

- ①ガーデンの案内マップ、「触って香りを楽しむこと」、ハーブの名前、特徴を表示する、
- ②高床花壇やプランター、ベンチの位置・高さを工夫し、触って香る「癒し空間」を作る、
- ③ハーブ植栽で囲んだ東屋などの休憩場所を設置し、「コミュニケーションの場」とする、
- ④底の空いた保管箱に落ち葉を集積し、微生物等の発生で「土壌改良」の効果を出す、
- ⑤ビオトープを造成し、「生態系」を確保する、
- ⑥ペニーロイヤルミントなどで「香りの芝生」を造り、歩いて踏めるスペースを設計する、
- ⑦患者や高齢者の園芸療法のスペースを設ける、
- ⑧園内に洗い場、園芸道具の置き場を設置する、
- ⑨監視カメラを設置し、「安全」の確認を図る、
- ⑩屋上・壁面緑化の断熱効果でCO²と電力を削減し、「環境と経済効果」を図る、
- ⑪ユニバーサルデザインで「安全」を確保する、
- ⑫香り、暖色系の花等病院に適したハーブを選ぶ

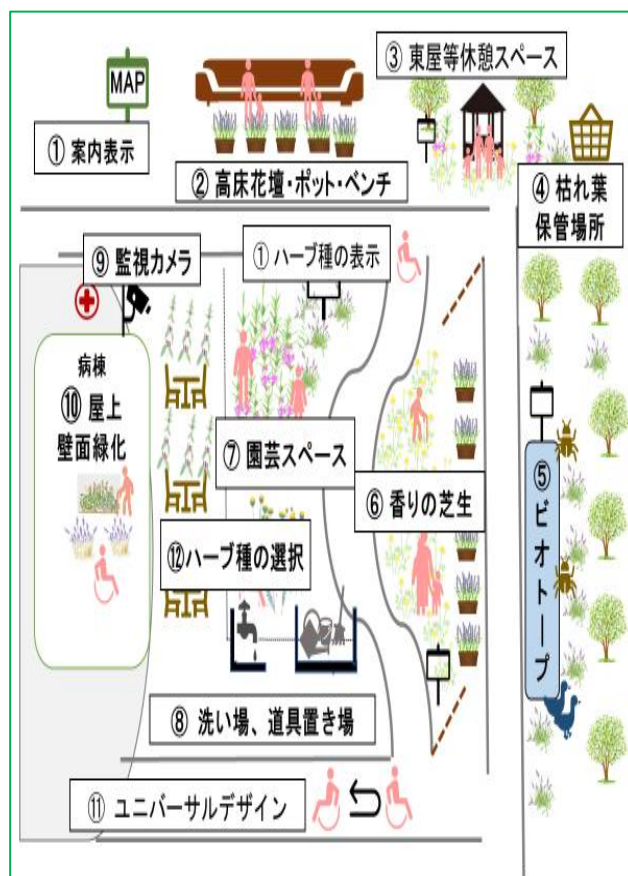


図7 病院向けハーブガーデンのデザインと留意点

4. まとめと考察

日赤医療センターにハーブガーデンのデザインと留意点を提案し、アンケートを病院とボランティアの方に配布した。アンケート結果と日赤でのインタビューから、提案のハーブ植栽によるデザインと癒し効果がヒーリングガーデンにつながるとの評価を得た。ハーブ以外の果樹など含めた「植物療法」へのデザインに改良し、今後他の病院や介護施設にも提案し、「癒し空間」の促進につなげていきたい。

【謝辞】

樹木医・環境造園家 豊田幸夫様、日赤医療センター 千葉修一様、町営すいハーブガーデン 酒瀬川様、他協力してくださった全ての方に感謝の意を表します。

【主要引用文献】

岩崎寛 (2017) 癒しの効果. 41-47, 山田宏之監修, 都市緑化の最新技術と動向. シーエムシー出版, 東京都, 309pp.